



埼玉FAXニュース

編集・発行

埼玉県医師会広報担当 松山 眞記子

https://www.saitama.med.or.jp/kaiin/kaiin_7.html

郡市医師会会長会議速報<7月25日>

金井会長挨拶

暑い日が続いている中ですが、郡市会長会議にお集まりいただきありがとうございます。ただ今、埼玉県感染症対策課からも説明いただきましたが、新型コロナウイルスの感染者数が急激に増加しています。感染拡大が顕著な九州地方の医師会長達からお話を聞いたところによると、沖縄県では定点当たりの感染者数が30人近い数値になっており、鹿児島県がそれに近いような状況であるとのことでした。

長崎県、福岡県の医師会長とお話する機会がありましたが、深刻な状況であるということです。現在感染拡大を引き起こしているKP.3という変異株ですが、免疫逃避性が高く、感染力が強いと言われています。一方で病原性についてはとりわけ高いわけではないと言われています。しかし、福岡県の会長が先日コロナに感染したとのことで、非常に疲れたご様子で、本人も辛かったということをおっしゃっていました。やはり、それほど軽い症状で終わるわけではないと感じたところです。いずれにせよ、今後さらに感染が拡大すると、第10波を越えるであろうと言われています。重症者が出ないことを願うばかりです。

7月23日(火)に帝国ホテルで日本医師会の役員就任披露パーティーが開催されました。本会議にご出席の先生方の中でも多く参加なさったかと思います。岸田総理や茂木自民党幹事長、林官房長官、それから武見厚生労働大臣もご出席なされ、その他にも多くの国会議員がいらっしゃっていました。松本吉郎会長を中心としたお披露目ですので、埼玉県選出の国会議員はとりわけ多く出席なさっていました。会の中では様々な意見交換がありましたが、やはり今回の診療報酬改定については評価が低いようです。しかしながら、これは日本医師会が尽力し、本当にできる限りのことをした上での結果です。これが2年後にはさらに厳しい改定となるであろうということが言われています。

本日の常任理事会の中でも話がありましたが、ベースアップ評価料について、効果は本当にごくわずかであろうと思いますが、2年間で4.5%のベースアップをするということです。大手企業では春闘の結果、賃上げの率が5%を超えています。これは今年だけでの上昇率なので、来年も同様に5%上昇だとすれば、医療界の2年間で4.5%というのは優に超えるベースアップとなります。そうなれば医療界の人材確保というのは極めて難しい状況なることは明らかなので、次の診療報酬改定まで先延ばしにはできないような深刻な問題ではないかと思っています。

本当に多くの問題を抱えた状態で、日本医師会松本執行部の新たな2年間が始まることになると考えています。埼玉県医師会としても、当然のことながらできる限りのことをやっていく所存です。

また、今後の医療界を良い形で次世代に引き継ぐためにも頑張っていきたいと思っていますので、先生方にも是非ともご協力いただきますよう、よろしくお願いいたします。

お知らせ

埼玉県内科医会・埼玉県総合内科専門医集談会

合同カンファレンス

日時：令和6年9月7日(土) 15:00~16:50

場所：さいたま赤十字病院 2階 多目的ホール及びWEB

特別講演Ⅰ：

「喘息診療アップデート：

診療に必要な最新情報をすっきりまとめました」

特別講演Ⅱ：

「プライマリケアに役立つ呼吸器病態の理解と治療」

申込URL：https://astrazeneca.zoom.us/webinar/register/WN_CsyFz87_QTKtzJLk8u8BqQ

問合せ先：さいたま赤十字病院 総合臨床内科 江口和男

(TEL 048-852-1111)

最近のトピックス

■50代開業医の労働時間、週60時間超が「33.7%」

日医総研「勤務医より深刻」■

日医総研のワーキングペーパー(WP)によると、50代の開業医の33.7%が、「過労死ライン」とされる週60時間超の勤務をしていた。勤務医の割合を上回った。「単純に数字だけを比較すると、勤務医よりも長時間労働が深刻とも言える」と指摘している。

昨年11月、日本医師会の女性医師支援センターは、50代の日医会員を対象に、キャリアプランに関する調査を実施。その結果を日医総研で分析した。

週当たりの総労働時間(臨床以外の労働時間を含む)が60時間を超えていたのは、全体で30.5%。開業医は33.7%、勤務医は27.2%だった。

WPでは、開業医の仕事が臨床だけでなく、人事、経理、施設・物品の管理、医師会活動など、多岐にわたると説明。「代診医の派遣や開業医の臨床以外の業務の支援など、公のサポートが必要と考えられる」とした。

調査結果の分析結果を踏まえ、働き方の男女差や、60代以降のキャリアプランに関する考察も盛り込んでいる。WPの題名は「50代医師の将来のキャリアプラン調査—現在の働き方と65歳以降に想定するキャリアー」。

※1

損害保険・生命保険のお問い合わせ・ご相談は

(有)埼玉メディカル

〒330-0062 さいたま市浦和区仲町3-5-1

TEL 048-823-9230 / FAX 048-823-9260

■コロナワクチン定期接種、10月以降で 期間は自治体で設定■

今年度から始まる高齢者への新型コロナワクチンの定期接種について、厚生労働省は、10月1日以降に始める方向で調整している。今後、厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会での議論を経て、正式に決める。

ワクチン接種の見通しを、6月下旬、自治体に周知した。接種時期は、10月1日～来年3月31日の間で、各自治体が設定する方向だ。

対象者は、65歳以上の高齢者と、60～64歳で重症化リスクの高い人。原則1回の接種を想定している。抗原株は「JN.1系統の株」を採用する。

1回の接種費用は、ワクチン代と手技料で1万5300円程度と見込む。接種を受ける高齢者の自己負担を7000円程度に抑えるため、国が8300円を助成する計画だ。自治体が設定した接種期間に限って、助成金を出す。

全額公費による特例臨時接種は、昨年度で終了した。今年度から定期接種に切り替え、秋冬に実施するとしていた。 ※2

■医療従事者の賃上げ、次期改定に意欲 日医・松本会長■

日本医師会の松本吉郎会長は11日、東京都内で講演し、医療従事者の一層の賃上げに向け、次の2026年度診療報酬改定への対応に意欲を示した。

全国公私病院連盟の創立60周年記念講演会に登壇した。

24年度改定では、財務省が、診療所を中心としたマイナス改定を主張。松本会長は「厳しい改定だった」と振り返った。医療従事者の賃上げの必要性を前面に押し出して主張し、本体プラス改定とはなったものの、物価上昇などを考慮すると「十分な財源とは言えない」とした。「診療報酬の一点張りではなかなか難しい。税制や補助金も含めて、なんとか対応しなければならない」と話した。

24年度改定で創設した「ベースアップ評価料」にも言及した。「2年後（の改定）に続くかどうか不安だという声もあるが、一度上げた賃金を下げるわけにはいかない」と強調。「（評価料を）さらに上げられるかどうかは、今後のわれわれの取り組みにかかっている」と述べ、次の改定に向けて力を尽くす姿勢を示した。

24年度改定で創設した「地域包括医療病棟」については、算定要件が厳しいとの認識を示した。「なかなか移行できないのではないかと」語った。 ※3

■自民公認で「決意新たに」 日医連候補・釜范氏■

来夏の参院選に向けて自民党の公認を受けた日本医師連盟組織内候補の釜范敏氏（日医副会長）は7月25日、「本当にありがたい。全力で取り組む決意を新たに」と取材に話した。

医療現場を取り巻く環境は厳しくなっているが、国民や国会議員の理解が十分には得られていないと説明。「医療の厳しい現状に対する幅広い理解を促すとともに、改善する方策を進められるよう、全力で取り組みたい」と力を込めた。 ※4

■日医、新執行部発足でパーティー 首相・厚労相も祝辞■

日医は7月23日、先月発足した新執行部を紹介するパーティーを、東京都内で開いた。岸田文雄首相、武見敬三厚生労働相ら、政府・与党の幹部や、医療関係団体の幹部も出席した。

●北里柴三郎の精神、次世代につなぐ

2期目に入った松本吉郎会長は、今月発行が始まった新紙幣の肖像として、初代会長の北里柴三郎が選ばれたことを紹介。北里は、研究成果を医療現場の診療・治療・検査に役立てるという強い信念を持ち、多くの後進者を育てた、と説明した。

「その高邁な理想と精神を、しっかりと後世の医師や医療関係者につなげていく使命を、私たちは持っている」と強調。国民に資する医学の進歩、医療の発展が続くように、「さらに努力を続けていきたい」と語った。

●「社会全体に負けない賃上げを」

岸田首相は祝辞で、地域医療への尽力や、能登半島地震での医療支援の協力に、謝意を示した。高齢者の増加や人口減少など、社会の変化を踏まえ、「かかりつけ医機能を発揮できる制度整備、地域医療構想のバージョンアップ、医師偏在是正、医療DXなど、努力を続けなければならない」と述べた。

デフレ経済からの脱却に伴う、賃上げの重要性も強調。2024年度診療報酬改定で創設した「ベースアップ評価料」に触れ、「幅広く医療従事者の賃上げを、社会全体の賃上げに負けないくらいしっかりと支えてほしい」と呼びかけた。

●医療偏在是正「前例のない対策を」

武見厚労相は、医師偏在の是正に向けて、「経済的インセンティブ、規制的手法などを組み合わせ、前例のない総合的な対策を進める」と説明した。重要課題として、医療DX推進、医療従事者の賃上げなども挙げた。

「松本会長をはじめ、役員の皆さまと率直な議論を重ねながら、より良い医療のための取り組みを進めたい」と話した。

父の武見太郎氏が、日医会長を務めていたことにも言及。「父は時として厚生省の役人を罵倒していたこともあったが、まさか息子が厚労相になるとは、夢にも思わなかったと思う」と語った。「しかし、父は常に未来を見据えて、わが国の医療を考えていた。大きな歴史の転換期に、日本の未来の医療を着実に築けるよう、ご協力をお願いしたい」と訴えた。

林芳正官房長官、自見英子地方創生担当相、松本剛明総務相、新藤義孝経済再生担当相、自民党の茂木敏充幹事長、横食義武・日医名誉会長、門脇孝・日本医学会長らも登壇し、祝辞を述べた。 ※5

■コロナ定点、佐賀31.08 7月15～21日、全国は13.62■

※6

（記事はメディアファクス※1：R6.7.31 ※3：R6.7.12
日医FAXニュース※2：R6.7.23 ※4：R6.7.30 ※5：R6.7.26
※6：R6.7.30（タイトルのみ） 各号より抜粋）
※ 次回のFAXニュース送信は、R6年9月14日の予定です。